



年頭の御挨拶 豊かな海づくりへ向けて



JF大分

水産おおいた

発行元
大分県漁協

大分県漁業協同組合 代表理事組合長 中根隆文

新年、明けましておめでとうございます。
 組合員の皆様、役職員各位に謹んで初春のお慶びを申し上げます。
 昨年を振り返りますと、コロナウイルス感染症が5類に移行し、経済活動は回復の兆しを見せてまいりました。一方、ウクライナや中東の紛争の長期化による燃油、飼料や諸資材の価格の高騰・高止まりに加え、ALPS処理水の海洋放出に伴う中国による日本産水産物の輸入全面停止もあり、水産業を取り巻く環境は引き続き厳しいものとなりました。また、会計監査人監査への移行やインボイス制度の導入、信用事業譲渡に向けた対応を求められた年でもありましたが、組合員の皆様のご理解とご協力をいただき、一歩ずつ前進してまいりました。
 さて、本年はいよいよ11月に「第43回全国豊かな海づくり大会・おんせん県おおいた大会」が開催され

ます。リレー放流や1年前イベント「おおいた海博」により高まってきた機運を大会の成功につなげ、本県の魅力あふれる多様な水産物や「おんせん県おおいた」の新たな魅力を全国に発信したいと存じます。
 さらに、大会を契機に水産業の振興・発展を図るため、期を同じくして完成・稼働する漁業公社国東事業場の種苗生産施設や佐伯市蒲江の県漁協水産物処理加工施設を活用し、水産資源の増大、水産物の販売促進に取り組んでまいります。
 皆様とともに「おんせん県おおいた大会」を成功させ、「豊かな海」と「活力ある水産業」を実現してまいります。
 本年が実りの多い年となりますとともに、皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げ、年頭の挨拶と致します。本年もよろしくお願ひ申し上げます。

<http://www.if-oita.or.jp/>

謹賀新年



大分県農林水産部長

佐藤 章

新年明けましておめでとうございます。
 中根組合長をはじめ大分県漁業協同組合の役員並びに組合員の皆様方には、平素より各地域で、水産業の振興にご尽力をいただいておりますことに、深く感謝いたします。
 さて、昨年を振り返りますと、5月に新型コロナウイルス感染症が感染症法上の5類に移行したことで社会経済活動が活発となり徐々にコロナ前の状態に戻り始めました。
 しかし、全国的な漁獲量の減少や漁業者の高齢化、魚離れによる消費量の低迷といった問題に加え、未だロシアのウクライナ侵攻に端を発する資材や燃料費等の高騰が続いています。県内では7月の大雨による漁港周辺への土砂や流木の堆積など自然災害の発生、また8月には、ALPS処理水の海洋放出に伴う中国の日本産水産物の輸入が規制され、本県水産業者にも影響が出るなど厳しい1年となりました。
 その一方で、6月には佐伯市蒲江で県漁協の新たな水産物加工処理施設が起工しました。完成後はブリ・フィレや切り身等の加工品が増産され、県内外での販路拡大がおおいに期待されます。
 また、いよいよ今年11月10日には「第43回全国豊かな海づくり大会・おんせん県おおいた大会」が開催されます。漁業者の皆様とともに、県下各地で子ども達と稚魚を放流す

るリレー放流や水産教室の実施、様々なイベントでの大会PRや1年前イベントの開催など、水産業への理解促進や県産水産物の味力発信に取り組んでまいりました。大会開催に向け、皆様とともに県全体でさらに機運醸成を図っていきたくと考えています。
 県としては「全国豊かな海づくり大会」の開催を本県の漁船漁業、養殖業を持続的に発展させるための絶好の機会と捉え、関係する皆様と連携し、生産・販売の両面で取組を一層進めていきます。
 生産面では、本格稼働する漁業公社国東事業場を活用し、広域的な海域ごとに海底耕うんや増殖礁の設置など環境を整備した放流適地に種苗を拠点的に放流することで、水産資源のさらなる回復を図ります。また、引き続きブリ人工種苗の生産技術開発を行うとともに、入津地区でのカキ養殖試験や湾内環境改善などの取組を進めることで、養殖業の生産基盤の安定と産地出荷体制を強化します。
 一方、販売面では、県内の消費拡大を進めるため、量販店での販売促進や県漁協や栄養士会などと連携した魚食普及活動を行うとともに、県外では「おおいたの魚・パートナーシップ」量販店・飲食店の新たな認定や既存店でのフェア開催などを通じて、本県水産物のさらなる販路開拓や販売促進を図ります。
 これらの取組を着実に進めることで水産業の成長産業化を進めて参りますので、皆様方の一層のご尽力とご協力を賜りますようお願い申し上げます。
 終わりになりますが、新しい年がより良き年になるよう心より祈念いたしまして、私からの新年のご挨拶とさせていただきます。



全国漁業協同組合連合会
代表理事長

坂本 雅信

あけましておめでとございます。年頭にあたり、全国の皆さまに謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

近年、社会・経済情勢の世界的な不安定化が続き、我が国の漁業・漁村を取り巻く環境においても、燃油・資材価格の高騰や海洋環境の変化等に伴う不漁、頻発



農林中央金庫
福岡支店長

久古谷 卓治

新年あけましておめでとございます。

大分県漁業協同組合の役員ならびに組合員の皆さまにおかれましては、お健やかに令和6年

する自然災害など、大変厳しい状況が続いております。

本会は昨年、これらの諸課題に対応するため、JFグループの先頭に立って、対策の確立などを関係要路に強く要請し、最終的には要望事項を網羅するかたちで、6年連続で3千億円を超える予算を確保することができました。ここに、改めてご協力いただきました会員及び関係者の皆さまに御礼申し上げます。

また、昨年は東京電力福島第一原子力発電所におけるALPS処理水について、我々が今まで求めてきた「海洋放出反対」の声は聞き入れられず、8月24日から政府主導で海洋放出が開始されました。さらに、海洋放出に端を

の新春をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

また、私ども農林中央金庫の業務運営につきましても、日頃より格別なご理解・ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年を振り返ると、新型コロナウイルス感染症が5類に移行し人々の賑わいが町に戻りつつある一方で、終結の兆しが見えないウクライナ戦争等で、物価上昇ならびに燃油価格の高騰、とりわけ水産業界においてはALPS処理水の海洋放出による既存販路の縮小や魚価の低迷等、混乱が生

した中国等の過剰な輸入規制などもあり、全国の漁業関係者は日々、不安を抱えています。

漁業者が強く望んでいるのは、安心して漁業を継続することです。そのためには、国には「漁業者に寄り添い、必要な対策を取り続けることを今後数十年にわたるうとも、全責任を持つて対応する」という岸田文雄内閣総理大臣の約束を確実に履行し、漁業者をしつかり支えていただきたい。

一方、我々も引き続き状況を注視していくとともに、「水産業を守る」政策パッケージを活用しながら、漁業者が安心して操業できるように環境づくりに努めて参ります。

また、中国などの輸入規制に対

しては早期撤廃の実現が極めて重要な課題と認識しており、JFグループとして、漁業の成長、発展、食料自給率の向上のために国民を巻き込んだ国を挙げての魚食拡大を進めていきたいと考えております。

私は常々、「日本の漁業にはポテンシャルがあり、成長産業である」と申し上げてきました。日本の漁業は、もともと豊かな海に囲まれた環境で生まれた産業であり、魚を中心とした「魚食」、「和食」という文化を発展させてきました。我々は、こうした海や漁村の地域資源の価値や魅力をさらに活用・発信して、地域の賑わいや所得と雇用を生み出すことが期待される「海業(うみぎょう)」の振興などとともに、「浜の活力

じた年でありました。こうした中、大分県漁業協同組合におかれましては、総合事業体として外部環境変化により影響を受けた組合員に寄り添い、金融・非金融面で相談対応を継続いただいたこと、改めて皆様のご尽力に感謝いたします。

さて、JFマリンバンク運営に目を向けますと、令和6年度は次期中期戦略の初年度の年となります。現行中期戦略に引き続き、漁業・漁村・資源管理に資する施策を共同実践し、「漁業者所得の

再生プラン」を推進して参ります。併せて、10周年を迎えたブライドフィッシュプロジェクトなどを通じて、国産水産物の消費拡大の一翼を担っていく所存です。今年は今行のJFグループ運動方針の取り組みの最終年です。引き続き、担い手育成、合併等組織再編、産地市場統合、販売事業改革などに取り組み、浜の構造改革を実現し、新たな運動方針の策定に繋げていくこととします。

最後となりますが、漁業の豊かな将来を念じつつ、全国各地で活躍の皆様のお操業の安全とご繁栄・ご健勝をご祈念しまして、新年のご挨拶と致します。

していくことを祈念しております。

これら各種取組において、私ども農林中央金庫といたしましても、大分県漁業協同組合との連携を、より一層強化し金融・非金融の両面で支援をしてまいります。

最後になりましたが、皆様方にとって本年が実りの多い年になりますことを心より祈念いたします。年頭のご挨拶とさせていただきます。



恭賀新春



大分海上保安部長

立道英樹

新年あけましておめでとございます。

大分県漁業協同組合の役員並びに組合員の皆さまにおかれましては、平素から海上保安業務に対する格別なるご理解とご支援を賜り、紙面をお借りして厚く御礼を申し上げます。

皆さまにおかれましては、この数年のコロナ禍でのそれとは異なり、コロナ禍以前の賑わいを取り戻しつつある中、明るく希望に満ちた新年を迎えられたこと存じます。

さて、本年は、「全国豊かな海づくり大会」おんせん県おおいた大会が43年ぶりにこの大分県で開催予定となっております。昭和56年の第1回大会の開催地でもあり、大分県が水産県としての大きな役割を担っていることを改めて実感するとともに皆さまの日頃からの様々な取組みに對しまして改めて敬意を表します。

漁船による海上パレードや放流行事などの準備も含め、開催までの間、皆さまも大変お忙しいなかと思いますが、私たちが海上における警戒に万全を期し、大会の成功に向けた協力をさせていただきます。

また、今年も「漁船無事故チャレンジ100 in OITA」に取り組みでいたしておりますので、引き続き安全運航、安全操業で獲れたおいしい大分県のお魚を届けていただきたいと思います。もちろん、私もおいしい大分県のお魚のファンの一入です。

結びに、皆さまの今後ますますのご健勝とご多幸を祈念致しまして、新年のごあいさつとさせていただきます。

第43回全国豊かな海づくり大会 ～おんせん県おおいた大会～

開催日時 令和6年11月10日(日)

大会行事 式典行事 iichikoグランシアタ

- ・プロローグ
- ・主催者あいさつ・功績団体表彰・稚魚のお手渡し
- ・漁業者メッセージ・大会決議・大会旗引継 など

海上歓迎・放流行事 別府港第4埠頭

- ・海上パレードと本県の漁法紹介・御放流など

関連行事 県内複数箇所

御放流魚 ※海上歓迎・放流行事(別府港)で放流



お手渡し魚 ※式典行事会場で手渡され後日(県下各地)放



PM29 やまくに
(総トン数335トン)

謹んで新年のお慶びを申し上げます 令和六年元旦

全国漁業信用基金協会
執行役員兼大分支所長
岡田雄

日本漁船保険組合
大分支所運営委員長
森崎真吾
大分支所長
中村公成



全国共済水産業協同組合
大分支事務所長
中根隆文

全国合同漁業共済組合 大分支事務所
大分県漁業共済事業運営委員長
鳴海盛彦
大分支事務所長
福島賢太郎

県議会 第4回定例会

水産関係質疑応答

県議会は11月27日に第4回定例会を開会、12月4日から3日間一般質問を行った。

戸高賢史氏(公明党・別府市)は4日、水産物の輸出について、阿部長夫氏(自民党・杵築市)は6日、全国豊かな海づくり大会について質した。



戸高賢史議員

水産物の輸出について

【質問】戸高議員

中国の禁輸で影響を受ける養殖ブリやクロマグロは、別の販路開拓支援が必要。県は水産物の輸出促進にどう取り組むのか。

【答弁】佐藤農林水産部長

特定の国に依存しない複数の輸出先を確保するため、米国



阿部長夫議員

全国豊かな海づくり大会について

【質問】阿部議員

本大会の開催まで1年を切る中、県は機運醸成に向けてどのように取り組むのか。

【答弁】佐藤農林水産部長

市町村との連携イベント、企業等の協賛行事、子どもたちによる稚魚のリレー放流や水産教室などを拡大するとともに、「おおいた県産魚の日」協賛店等販売現場でのポスターのほりによる水産物の消費喚起、街中の装飾や小中高生を対象とした絵画、習字、作文コンクール開催など県全体での取組を加速し、県民総参加の大会への機運醸成に努める。

に加え東南アジアやEUの販路開拓に向け、バイヤー招聘や展示会への出展等を支援する。県漁協の新加工施設を活用し、切り身等多様化する海外ニーズに対応するとともに、環境に配慮したマリンエコラベルの取得も進め、輸出を拡大する。

農林水産部要求 523億円

令和6年度大分県当初予算

県は11日、令和6年度一般会計当初予算の要求状況を公表した。各部局の要求総額は5,470億円で、コロナ関連事業の終了等に伴い、知事選後の前年肉付予算に比べ6.6%、383億円余りの減となった。

人口減少や地球環境問題の深刻化などの課題解決を強力に進めるために設けられた予算特別枠「新おおいた創造挑戦枠」20億円には、164事業35億円余りの要求があった。

農林水産部の要求は523億円余りで、前年肉付予算に比べ1.2%、6.5億円余りの減となった。

水産業では、頻発・激甚化する自然災害から県民の命と暮らしを守る漁港施設の耐震化など災害に強い基盤づくりの着実な推進、令和6年度に本県で開催される「第43回全国豊かな海づくり大会」の成功と、これを契機とし、環境の変化やマーケットの多様化に対応した水産業への転換を図る。養殖業においては、ブリの端境期出荷に向けた人工種苗供給体制の整備や養殖漁場の環境改善など、漁船漁業においては、より広域な海域ごとに種苗放流、資源管理、環境整備を一体的に行う新たな増殖モデルの構築に取り組み、さらには、学校給食における県産魚の提供による魚食普及など水産物の消費喚起を行うとしている。主な事業の概要は以下のとおり。

事業名	6年度当初要求額 (5年度7月 補正後予算額)	事業の概要	所管課
全国豊かな海づくり大会 開催事業	507,305 (58,711)	水産資源の保護や、海や河川の環境保全の大切さを国民に訴えとともに漁業の振興と発展を図るため、令和6年11月に第43回全国豊かな海づくり大会を開催する。 ・式典行事や海上歓迎・放流行事、関連行事等の運営 など	全国豊かな海づくり大会推進室
県産水産物流通拡大推進事業	94,876 (12,796)	県産水産物の流通拡大を図るため、販促活動等により需要を確実に取り込むための取組を支援する。 【特】学校給食での県産水産物の利用促進による魚食普及 など	漁業管理課
海域戦略魚種増殖モデル構築事業	60,292 (22,882)	効果的な資源造成による水産資源の回復を図るため、広域で取り組む新たな増殖モデルの構築を行う。 【新】環境整備を行った放流拠点での種苗放流の実施 など	水産振興課
【特】 養殖ブリ周年供給体制構築事業	66,649 (0)	ブリ類養殖業の周年供給体制を構築するため、4～6月の端境期出荷に向けた人工種苗の安定供給体制を整備する。 ・出荷時期を調整できる人工種苗についての技術移転や現地実証 など	水産振興課

※【新】は新規事業、【特】は「新おおいた創造挑戦枠」事業

水 研 だ よ り

EPかぼすブリ生産に向けて奮闘中！！

かぼすブリは大分県産ブランド魚として全国的に知名度が高くなりつつあり、令和2年度には県産養殖ブリ生産量全体の約5%に達しています。

現行のかぼすブリは、かぼす果皮パウダーあるいはかぼすジュースをモイストペレット(MP)に添加したものを一定期間給餌して生産していますが、最近では養殖ブリに与える餌はMPに代わり、栄養価と保存性に優れているエクストルーデッドペレット(EP)などの固形飼料を使用する業者が多くなっており、今後のかぼすブリ生産の拡大を図るためにはEPによるかぼすブリ生産手法の開発が必須となっています。

水産研究部では、現場のニーズに応えるため令和元年度から、EPによるかぼすブリ生産研究に取り組んでいます。しかしながら、従来の果皮パウダーでは粒径が大きくEPに展着しづらいこと、かぼすジュースではEPに浸透しない等、課題も多く一筋縄ではいかない状況です。

今年度は、粒径の小さな改良型のかぼすパウダーを使用したEPへの展着試験や、かぼすジュースに代わるかぼすオイルを使用したEPへの浸透試験などを実施します。なお、オイルやEPの製造は大手メーカーの研究部門と協力しながら進めています。

試験の成功によって、EPかぼすブリを生産することができるようになれば、これまで以上に効率よくかぼすブリが作成できるようになり、さらなるかぼすブリの生産拡大が期待されます。引き続き、水産研究部へのご協力を賜りますよう宜しくお願いします。



改良型かぼすパウダー 展着剤



かぼすパウダーを展着したEP



かぼすオイル



かぼすオイルを浸透させたEP



EP給餌



EPを食べるブリ

部落差別につながる身元調査をさせない決心・させない勇気

どこでもまれたって

私は私

人権に関する相談窓口
みんなの人権110番
0570-003-110

大分県 大分県教育委員会 大分県人権教育・啓発推進協議会

097-506-3177

大分県漁協は部落差別の解消にかかわる推進指針及び推進計画に基づき人権啓発を進めています。

水産研究タイムリー情報

放流キジハタの定着状況調査を開始

【12月6日・水産研究部】

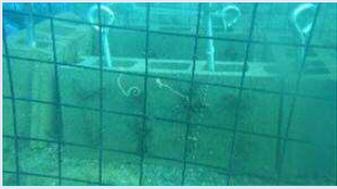
11月27日に津久見市内の港内において全長約8cm、2,950尾のキジハタ(標識として左腹びれを抜去)を放流しました。今回「港内」と「港外」で放流後の定着状況や摂餌状況を調査し、どちらがキジハタの放流場所として適しているかを検討します。後日、港外の岩礁帯に右腹びれを抜去したキジハタを放流予定です。



佐伯市蒲江地先にてテングサの藻場造成

【11月22日・北部水産グループ】

蒲江産テングサは大分県漁協のテングサ入札会で品質が良いと高く評価されています。さらなる増殖を目指して、テングサ藻場の造成試験を行いました。主枝長6cmに生長した人工種苗400本(日齢717日)を括着させた建材ブロック8個を、食害防除カゴで覆い、施肥剤を付けて、11月15日に佐伯市蒲江屋形島地先の海底(水深:5m)に設置しました。



海藻カジメの種苗生産を開始

【11月10日・北部水産グループ】

津久見市無垢島で採取したカジメ(地方名:くろめ)母藻を用いた種苗生産を10月26日に実施しました。288万個の遊走子(タネ)を採取し、現在シャーレで育成中で、その後陸上水槽にてさらに生長させます。葉長10cmに生長する来年初夏には、建材ブロックに括着させた後、海に設置して藻場造成します。



カジメ母藻



人工種苗(0.1mm)

ブリ秋種苗、現地養殖試験を開始

【11月7日・水産研究部】

No1552(2023年8月3日発信)で報告した「ブリの夏季採卵」について、その後の種苗生産が順調に推移し、10月中下旬に、約6万7千尾のブリ種苗(全長約10cm)を津久見と蒲江の養殖場へ試験出荷しました。今後、現地養殖試験として成長や歩留まりを追跡するとともに、令和7年春の端境期(養殖ブリ出荷量減少期)に高品質なブリとなるかを、養殖業者と共に調査します。



ノリ養殖 始まりました

【10月31日・北部水産グループ】

本県豊前海の冬の風物詩『ノリ養殖』が宇佐市(2経営体)と中津市(3経営体)で始まりました。ノリ網を束ねて海面に張り、ノリの種(糸状体)が入り込んだカキ殻をぶら下げてノリ網に種付けする採苗作業が10月中旬から行われており、初摘採は12月上旬の予定です。当グループでは、ノリ網の芽つきや成育状況を確認し、指導しています。



ヒラメの選抜育種を実施中!

【10月31日・水産研究部】

当研究部では病気に強く成長の良いヒラメの育種を行っています。今回、陸上水槽で飼育中のヒラメにPITタグを埋め込みました。PITタグとはマイクロチップが入ったタグで、魚に埋め込むことで個体識別できるようになります。今後、個体別に成長を追跡し、選抜育種を進めていきます。



PITタグ

東電に賠償の説明を求める

A L P S 処理水の海洋放出に伴う禁輸被害

昨年8月24日、ALPS処理水の海洋放出が始まり、中国は日本産水産物の全面的な輸入停止の措置を講じた。ナマコ等の中国向け水産物の価格は下落し、関係する漁業者に甚大な被害が生じている。

このため当漁協は東京電力HDを本店に呼び、禁輸被害に対する賠償について説明を求めた。20日は本店役職員に対する事前説明、21日は県内全域の運営委員長や支店長への説明が行われた。

損害額は、放出前(令和4年)の「基準価格」と放出後の「請求年価格」の価格差(下落額)に「請求年数量」を掛け、市場手数料等を控除して算定される。請求は生産者から委任を受け県漁協が行うが、生産者個人が行うことも可能(必要書類は増える)。取りまとめ等を行う県漁協には事務経費が支払われる。現時点の対象魚種は、ナマコ、ホタテ及び食用クラゲだが、養ブリ等に対する要望もあり、今後検討される模様。

なお、休業補償もあり得るが、原則として県全域で行うものが対象で、支店や共同漁業権ごとに行う場合は個別相談となる。



1日、運営委員長合同会議の後、第9回理事会を開催した。第1号議案「組合員の異動について」では、准組合員への譲渡加入2名、新規加入4名について承認した。第2号議案「出資金の増資等について」では、合同会議の意見も踏まえ次のとおり決定した。

1「新規加入時の出資金」は令和6年4月1日以降、①正組合員35万円以上、②准組合員15万円以上とする。③「出資金の平準化」を図るため同4月1日以降、③准組合員から正組合員への資格変更の出資金は35万円以上とする。また、3年以内を目標に、④現行正組合員の出資金を35万円以上、⑤現行准組合員の出資金を15万円以上とする。④⑤については、次期総会で漁協方針として組合員に周知を図るが、段階的な引き上げについて

正組合員の出資は35万円以上に 運営委定年は遵守

2「新規固定資産取得時の受益者の増資」については、減価償却期間や受益範囲に鑑み協議の上定め、修理等は除外することとした。第3号議案「漁業運営委員の被選挙権「定年」について」では、現行の規程を遵守し変更しないことに決した。

協議・報告事項は、①JFマリバンバンク体制整備モリタニングの実施結果について事務局から、②新加工場の工事進捗状況について工事監理者から説明し、協議した。



運営委員長と水産団体が合同会議

1日、県水産会館において「令和5年度大分県漁協地区漁業運営委員長と水産団体合同会議」を開催した。

第1部では日本漁船保険組合大分県支所が①保険約款の一部改正及び②組織体制等に関する検討について、第2部では全国共済水産業協同組合連合会大分県事務所が①保険代理業務の取組み強化について、第3部では全国合同漁業共済組合大分県事務所が①ALPS処理水の海洋放出に伴う対応について説明した。



も尊重する。

7日、県水産会館において「令和5年度第4回支店長会議」を開催した。

第4回支店長会議

昼食をはさんで第4部では県漁協が①令和5年度仮決算概要、②出資金の増資等及び③地区漁業運営委員の被選挙権「定年」について説明し、意見交換を行なった。増資と定年については様々な意見があり、理事会を前に多くの運営委員長から発言をいただき参考になった。

①令和5年度・仮決算概要については、9月末現在の事業別、地区別の状況を説明し、年度末の着地が厳しい見込みであることを報告した。

②令和5年12月末・資産自己査定(仮査定)の実施については、様式を示し作成・整理を依頼した。

③出資金の増資等について及び④地区漁業運営委員の被選挙権「定年」については、理事会で決定した内容について情報を共有した。このほか、⑤改正・電子帳簿保存法について説明したほか、年末の取組等について協力をお願いした。

賞与に関する意思決定プロセス、市場手数料等の取り扱い等について意見を交換した。

「いのちの現場に寄り添いながら」
～食育と防災は繋がっている！～
大分県漁村女性部リーダー研修会開催



今年の女性部リーダー研修会が12日、県水産会館であった。講師を招いて講話を聴き、組合長との意見交換を行った。コロナ禍で開催できなかった懇談の場も設け親睦を深めた。

講演は佐伯市出身、在住の柴田真佑氏が「いのちの現場に寄り添いながら」食育と防災は繋がっている！と題し、被災地ボランティアの体験と食の大切さについて話していただいた。組合長との意見交換では、豊かな海づくり大会における女性部の役割、女性部からの役員登用、地域による活動支援の濃淡、組合員増資の中等等について質疑応答を行った。組合員も職員も減少・高齢化が進む中、女性部の活動や支援のあり方について、意見を交わす良い機会となった。

第22回 大分海区漁業調整委員会

18日、県水産会館で委員会が開催された。

第1号議案「知事管理漁獲可能量の設定について」では、特定水産資源「まあじ」及び「まいわし太平洋系群」の大分県知事管理区分について、漁獲可能量を現行水準（目安数量まあじ1868トン、まいわし6437トン）に定めることについて、異議ない旨答申することに決した。

第2号議案「大分県資源管理方針の一部改正について」では、

「まあじ」の漁獲可能量を数量明示から現行水準とし、全量は大分県まあじ漁業区分に配分する根拠となる大分県資源管理方針の改正について、異議ない旨答申することに決した。
その他、今年度中に開催された各種会議等の概要及び今後の予定について報告があった。

県知事賞(最優秀賞)



大分の海で泳ぐ
大分市立大在小6年 橋本 泉 さん

県漁業協同組合賞



ぼくの町のおいしいもの
中津市立如水小5年 赤坂響人 さん

おおいた県 おさかな絵

優秀作品を表彰



第7回おおいた県「おさかな絵」コンテストの表彰式が2日、大分魚市(株)(大分市豊海・公設市場内)において行われた。

県産魚の利用促進を進める「おおいた県産魚の日」運営委員会(山上誠二会長)の主催。県内73の小学校から応募があった3207点から選ばれた上位入賞者に賞状が贈られた。

中根隆文組合長は、中津市特産のハモや牡蠣を描いた赤坂響人さんに大分県漁業協同組合賞を渡し努力を称えた。

県産魚の日運営委員長賞



元気に泳ぐ生き物たち
大分市立西の台小4年 森重壮斗 さん

大分合同新聞社賞



つくみのヨコヅナ
大分市立春日町小1年 磯崎瑛斗 さん

こんなこと言われていませんか?
電子マネーを購入されるお客様
マルチメディア端末を利用されるお客様へ

- 有料サイトの未納料金がある
- 解約手数料が必要
- 電子マネーを買って番号を教えて

詐欺です!?
すぐに相談してください!

消費者ホットライン ☎188
大分県消費生活センター ☎097-534-0999
大分県警察 ☎#9110



信用事業譲渡研究室職員を任命

室長	小西英俊	総務部経営管理課長
副室長	長野定勝	信用事業部審査課長
副室長	工藤誓子	信用事業部資金課長
室員	植木千絵	総務部経営管理課主任
室員	橋本圭輔	信用事業部資金課長補佐
室員	平川ともみ	信用事業部資金課主任

九州信漁連への事業譲渡を念頭に研究室を設置しました。職員の皆様のご健闘を祈念します。

「極旨！おおいたオシャベリ食堂」も回数を重ね、次第に年配者には料理の名前が難しくなってきた。

年末の12月は「パニーニ」。見た感じはホットサンドだが、どうも違うらしい。パンに具材を挟んで焼くことは変わらないが、ホットサンドは具材を挟んだパンの両面を焼くので表面全体に焼き色がつくのに対し、パニーニは専用の鉄板で焼くことで表面に波型の焼き目がつく、イタリアで発祥した軽食とのこと。かぼすブリがどんな形でパンにマッチするかは、ぜひ動画をご覧ください。

そして新年は「サルサグローザ」。たぶんサルサソースを使ったメキシコ料理だろうと想像できるが、検索しても出てこない。原稿執筆中はまだ公開されていないので、動画が待ち遠しい。ひがた美人(牡蠣)とのマッチングも楽しみだ。

JFおおいた おさかなチャンネル

<https://www.youtube.com/@JF-ui6dz>

極旨！おおいたオシャベリ食堂

JFおおいた おさかなチャンネル



新年号を編集している今は、年末の最後の週である。米水津の加工場の処理本数はイブの日からピークに向かい、本店、各支店の多くの皆さんが加勢に出かける。杵築の加工場や銀たちの郷、おさかなランドなどでも、年末の業務は多忙を極める。3月の黒字決算に向け懸命に努力される皆さんに、心から感謝を申し上げます。

編集後記

御礼

常勤監事の三宅哲朗様から香典返しに代え多額の海難遺児募金を賜りました。ここに厚く御礼を申し上げます。

会計監査人による監査が始まりました。そして監査に対する印象が大きく変わった。県漁協の経営を、小手先ではなく本質的に健全なものにするために、親身になって指導して頂いている。組織・業務の合理化、債権回収や増資の取組等の努力も続け、着実に改革を進めていきました。令和6年が素晴らしい年になるよう、皆さんとともに最善を尽くしたい。



サカナをたべれば
幸福が見えてくる

ウオメシ

昼会席

海鮮
かわ村
(臼杵市)

「臼杵の魚はうまい」・普及員を勤めた若いころから確信している。そんな臼杵をウオメシに取り上げたことがない。と言うことで、さっそく取材に出た。さすがに40年前の店は営業しておらず、ネットで見つけた「海鮮・かわ村」を予約。「予約は会席料理(税別3,500円)から承ります」と言うことで、少し贅沢でプライベートな忘年会を楽しんだ。写真でもわかるとおり、見た目は美しく、ボリュームもありお味も素晴らしい。食後は、臼杵の歴史ある街並みを散策し、週末の恒例「大人の遠足」を満喫した。